

目指す学校像	「自ら学び続ける生徒の育成」を目指した「真の学び舎としての学校」
--------	----------------------------------

重点目標	1 真の学力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びを可能にする学習指導の充実 2 心身ともに元気で豊かな生徒を育成する生徒支援の充実 3 「地域とともにある学校づくり」をめざしたコミュニティ・スクールの推進 4 教職員一人ひとりのよさや個性を活かした学校づくりの推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○令和5年度全国学力・学習状況調査では、国語・数学・英語の3教科全てが全国・県の平均正答率を上回っている。 ○令和5年度の学校評価生徒アンケート調査の結果では、「積極的な授業参加」に関する項目の肯定的回答率は91%、「授業の理解」に関する項目の肯定的回答率は80%であった。 (課題) ○令和5年度全国学力・学習状況調査の内容・領域を項目別で見ると、国語の「漢字を書く」「古典原文と現代語文章の対比」、数学の「図形」「データの活用」、英語の「書くこと」「読むこと」について全国・県の平均正答率を下回っている。 ○学校での学習内容が家庭学習にどのように活かされるかが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 情報端末を活用した個別最適な学びの実現と適切な指導 「大砂土中アクティブラーニングモデル」の授業実践 STEAMS教育の実践による探究的学びの実現 	①全国学力・学習状況調査の結果を基に生徒が自己採点し、自身の学習状況を把握できるようにする。 ②スタディサプリやデジタル教科書等のデジタル教材を活用し、学力を向上させる。	①教育課程の編成・実施状況 ②自己採点による生徒の学習状況の変容 ③ICT機器を活用した授業の推進状況 ④学校評価の関連項目の回答結果				
			①アクティブラーニング型授業の実践により、主体的・対話的に学ぶ力を育成する。 ②「STEAMS TIME」を総合的な学習の時間に位置付け、プログラミング的な思考を取り入れた探究的な学習を実施する。 ③探究学習プログラム「さいたまエンジン」の実践を通し、コミュニケーション力や創造力を育成する。	①教育課程の編成・実施状況 ②各教科等の授業状況 ③ICT機器を活用した授業の推進状況 ④学校評価の関連項目の回答結果				
2	(現状) ○令和5年度の学校評価アンケート調査の結果では、「安全で安心な学校生活」に関する項目の生徒の肯定的回答率は97%、保護者の肯定的回答率は92%であった。また「安全・安心への配慮」に関する項目の生徒の肯定的回答率は89%、保護者の肯定的回答率は86%であった。 (課題) ○生徒は2校の小学校から入学して来るが、割合として、ほぼ一小一中の環境下であり、構築された人間関係を意識する傾向がある。配慮を要する生徒をはじめ、生徒一人ひとりが発信するサインを素早く察知し、支援・相談体制をより一層確立することが課題である	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりへのきめ細かい生徒支援や教育相談体制の確立 安全な生活の実現に向けた主体的教育活動の充実 	①スクールダッシュボードを活用し、生徒一人ひとりの状況を素早く把握し、迅速に対応に当たる。 ②教育相談部会を中心に、不登校生徒や配慮の必要な生徒の情報を共有し、組織的に対応する。 ③「心と生活のアンケート」の結果に応じた面談を実施する。	①生徒の心身の健康に関する把握状況 ②教育相談の状況 ③不登校生徒への支援の状況 ④学校評価の関連項目の回答結果				
			①いじめ撲滅強化月間を中心に、いじめ防止に関する取組を行う。 ②いじめ予防授業を実施する。 ③スクールロイヤーによる情報モラルに関する講義を実施する。 ④日頃より生徒一人ひとりに寄り添い、共感的な人間関係を構築する。	①生徒支援の状況 ②いじめ撲滅に向けての取組状況 ③道徳・特別活動の授業の取組状況 ④学校評価の関連項目の回答結果				
3	(現状) ○本校は創立77年目を迎え、保護者をはじめ、地域在住の方に卒業生が多く、伝統校として地域に認知されている。 ○学校運営協議会において、目指す生徒像について熟議を重ね、生徒を地域全体で育成していくことを共有している。 (課題) ○地域との交流活動について具体的な取組方法を考えていく。 ○本校の教育活動について工夫を重ねながら外部発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を通じた家庭・地域との関係性の構築 地域との連携を踏まえた教育活動の実践 	①学校だよりやHP等を通して、生徒の活動状況を家庭や地域に発信する。 ②学校行事等について保護者をはじめ、地域に積極的に参加を呼びかける。 ③年間3回開催予定の学校運営協議会における熟議を充実したものとする。	①学校運営協議会の開催状況 ②保護者・地域との連携状況 ③学校評価の関連項目の回答結果				
			①地域の活動に積極的に参加する。 ②地域の方を講師とし、体験出前講座を実施する。 ③民生委員連絡会を実施し、地域の状況を共有する。	①関連機関との連携状況 ②学校評価の関連項目の回答結果				
4	(現状) ○「自ら学び続ける生徒の育成」を研究課題とし、教職員の指導力・学校の組織力向上のための研修を計画的に実施している。特に昨年度に引き続き、「道徳教育」についてさらに研究を進めている。 ○令和5年度の学校評価教職員アンケート調査の結果では、ICT機器を活用して授業を行った教職員の割合は96%であった。 (課題) ○ICT機器の授業活用については全教員の共通理解の下、実施することが課題である。 ○経験年数の少ない教員への指導方法の継承が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実 教職員の特性を活かした指導力の向上と組織力の確立 	①エバンジェリストを中心に、授業におけるICT機器の効果的な活用方法について計画的に校内研修を実施する。 ②研究推進委員会を中心に、研究課題に向けた校内研修を計画的・組織的に実施する。 ③道徳の授業を充実させる。 ④指導主事を招聘した研修会を年間2回以上実施する。 ⑤教職員の資質向上に関わる校内研修等を年間4回以上実施する。	①ICT機器を活用した授業の推進状況 ②指導主事招聘の研修による課題解決に向けての取組状況 ③教職員の資質向上に関わる研修状況 ④学校評価の関連項目の回答結果				